

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 城山東小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問調査)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問調査)

4 本校の参加状況

- | | |
|------|-----|
| ① 国語 | 15人 |
| ② 算数 | 15人 |
| ③ 理科 | 15人 |

5 留意事項

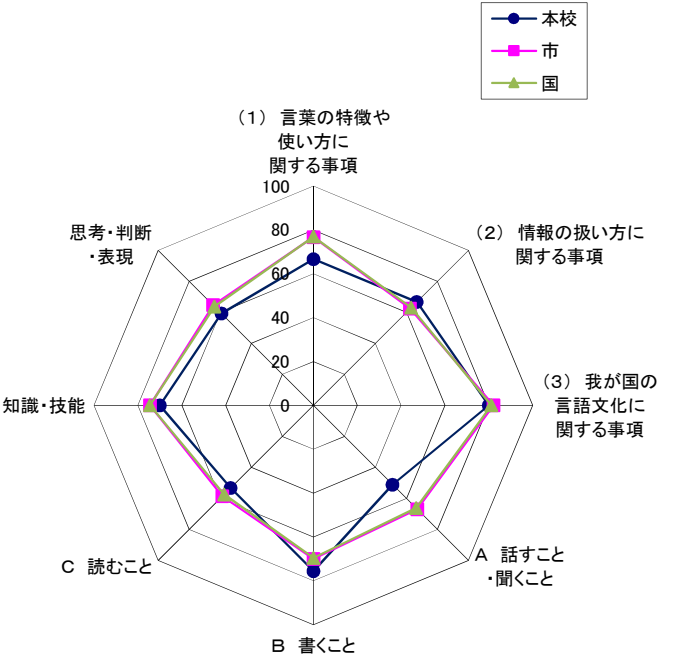
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立城山東小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	66.7	76.7	76.9
	(2) 情報の扱い方にに関する事項	66.7	62.4	63.1
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	80.0	82.1	81.2
	A 話すこと・聞くこと	51.1	67.0	66.3
	B 書くこと	75.6	70.0	69.5
	C 読むこと	53.3	58.6	57.5
観点	知識・技能	70.0	74.5	74.5
	思考・判断・表現	59.3	64.6	63.8
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

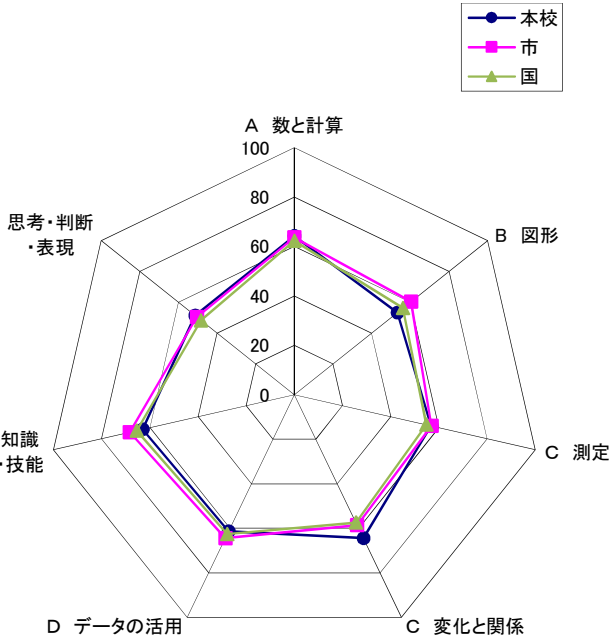
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は市の平均より低い。 ●漢字の読み書きの定着に課題が見られる。	・漢字の習得では、1人1台端末を活用したり、小テストや朝の学習、家庭学習で復習したりする機会を設け、前学年までに学習した漢字の復習を繰り返すことで、既習内容の定着を図る。
(2) 情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は市の平均よりやや高い。 ○情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を正しく理解できている。	・各教科においても、考えをウェビングマップ等の思考ツールで表したり、文章を読み取ってメモしたりして、自分の考えを分かりやすく文章や図で表現する機会を多く設ける。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は市の平均と同等であった。 ○言葉に関する資料と経験について書かれたものから、気付いたことを正しく選択することができている。	・昔話や神話・伝承などの本を読み聞かせで扱ったり、読書の充実を図ることで知識を豊かにして語彙力の向上を図り、自分の考えを広げるための手立てとしていく。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は市の平均より低い。 ●話合いやインタビューなどの場面において、目的や意図に応じた話題の出し方や、話し手の伝えたいことの中心を捉えることに課題が見られる。	・学級活動や総合的な学習など、他の教科の活動でも、意図的に話合いやインタビューをする機会を取り入れる。また、示資料等で話型を提示し、話合いの進め方についてのポイント明確にし、確認する。
B 書くこと	平均正答率は市の平均より5.6ポイント高い。 ○字数・内容等の条件を全て満たす2つ資料をもとに、詳しく説明する文章を書くことができる。 ●文章の構成の工夫を捉えることに課題が見られる。	・段落の順序や相互の関係に着目させたり、引用文や図表等の効果を考えたりして、筆者の意図を捉えられるようにする。 ・相手意識や目的意識を意識して、説明文や意見文を書くように指導する。
C 読むこと	平均正答率は市の平均よりやや低い。 ●複数の資料を正しく読み取り、目的に応じて文章や図表などを結び付けるなど、必要な情報を見付け、活用することに課題が見られる。	・説明文を読む際には、文章全体の構成を考えたり、文章と図表を結び付けたりして、内容の中心となる事柄を把握しながら読むように指導をする。 ・自分の考えと比較し、友達の考えをよく聞くように促すことで、新たな気づきや、考えをより深められるようにするとともに、目的に応じて文章の内容を的確に押さえて書くことができるように指導していく。

宇都宮市立城山東小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	64.2	63.6	62.3
	B 図形	53.3	60.4	56.2
	C 測定	56.7	56.9	54.8
	C 変化と関係	64.4	58.6	57.5
	D データの活用	61.3	64.4	62.6
観点	知識・技能	63.0	68.3	65.5
	思考・判断・表現	51.4	50.4	48.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

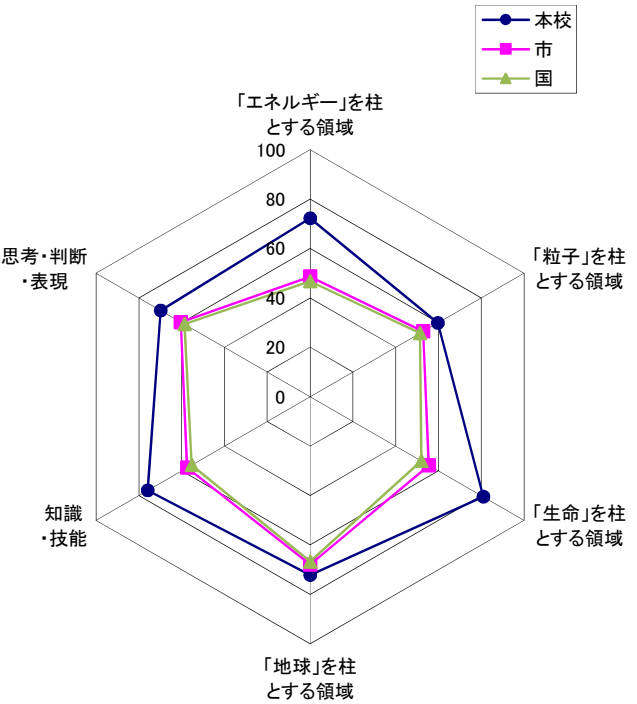
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は、市の平均と同等であった。 ○資料から必要な情報を選び、数量の関係を式に表し計算することができる。 ●数直線上に示された数を分数で表したり、加数と被加数が共通する単位分数の幾つ分かを表したりするなど、分数に関する理解が不十分である。	・問題の文脈に沿って数直線や図に表し、数量の関係を捉え、式に表すことができるよう授業での活動や補充問題で取り組むようにする。また、分数の学習では単位分数を基にした考え方や表し方を意識し、授業を通じて身に付けていくことができるよう指導を続けていく。
B 図形	平均正答率は、市の平均より低い。 ○角の性質や大きさについて理解している。 ●分割して図形の面積を求める方法についての理解が不十分で、適切に式で表したり言葉を用いて記述することに課題が見られる。	・授業での復習を通して、平面図形や立体図形について、面や辺、角など図形を構成する要素やそれらの位置関係に着目し、それぞれの図形の性質について理解の定着を図るようにする。 ・面積や体積の求め方について、補充問題に取り組む、習熟を図る。
C 測定	平均正答率は、市の平均と同等である。 ○はかりの最小目盛りが表す数値を正しく捉え、はかりの針が指している目盛りを読むことができている。	・重さを予想したり、実際に量ったりする活動を通して、量的感覚を身に付けることができるようにする。また、重さを量る場合に、使用した量については、「使用前－使用后」という関係が用いられることも理解できるよう、授業の中で復習に取り組んでいく。
C 変化と関係	平均正答率は、市の平均より高い。 ○伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見出すことについて平均正答率が全国の平均を上回っている。 ●はかりの目盛りを読むために必要な数量を見出し、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述することには課題が見られる。	・ある数量が変化するとき、他の数量が変化するかどうかを判断したり、ある数量が決まれば他の数量が決まるのかどうかを判断したりできるようにする力を身に付けることが大切である。授業での活動や補充問題を通じて、必要な数量を見出し、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述として表現することが十分にできるよう指導していく。
D データの活用	平均正答率は、市の平均をやや低い。 ○棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができる。 ●目的に応じて適切なグラフを選択して数量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて表すことには課題が見られる。	・グラフから、目的に応じてデータの特徴や傾向を捉えることができるよう、問題を解決するために適切なグラフを選択し、その結論について多面的に捉え考察する力を身に付けていけるよう、授業での活動や補充問題で取り組むようにする。

宇都宮市立城山東小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	72.2	48.6	46.7
	「粒子」を柱とする領域	59.7	52.8	51.4
	「生命」を柱とする領域	81.0	55.5	52.0
	「地球」を柱とする領域	72.2	67.9	66.7
観点	知識・技能	75.9	57.5	55.3
	思考・判断・表現	69.8	60.4	58.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より高い。 ○身の回りの金属のそれぞれの性質や乾電池のつなぎ方について、理解できている。 ●電気回路の作り方について、実験の方法を発想し、表現することに課題がある。 ●電流と磁力の関係についての理解が不十分である。	・電気回路の作り方において、丁寧に復習することで、正しい回路のつなぎ方や電流と電磁石との関係性について理解の定着を図る。 ・実験結果などから実験のまとめを自分の言葉で書く活動を計画的に取り入れ、自分の考えを書く力の向上を図る。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より高い。 ○温度によって水の状態が変化することについて、理解できている。 ●温度によって水の体積が変化することについて、理解が不十分である。	・身近な自然現象に触れながら考えることで、水の状態の変化や体積の変化について理解の定着を図る。 ・実験の予想、方法の確認、結果、考察の授業の流れを意識して取り組み、根拠を基に学習のまとめができるように促し、論理的思考の育成を図る。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より高い。 ○顕微鏡の操作方法を理解し、適切な像にするための技能を身に付けている。 ○ヘチマの花のつくりや受粉について正しい知識を身に付けている。 ●発芽の条件を調べる実験では、適切な条件の組合せを考えたり、実験結果の考察を記述したりすることに課題が見られる。	・植物の発芽や成長の条件を調べる実験では、表などを用いて条件の違いを明確にし、理解を深める。 ・教科書や他の資料を用いて、実験対象となった植物以外にも発芽や成長の条件が当てはまることを理解させる。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より高い。 ○水が高い土地から低い土地へ、最終的には海へ流れ出ることについて理解している。 ○粒の大きさの違いによって、水のしみ込み方の違いがあることを理解している。 ●温度によって水の状態が変化することと関連付けて、水の結露の現象を理解することに課題が見られる。	・水の蒸発・結露・凝固など、物質が姿を変える実験を計画的に行い、単元の学習のまとめを個々に作成するなど、体験と知識を結び付け理解を深める取組を行うようにする。

宇都宮市立城山東小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの
○「自分には、よいところがあると思いますか。」「幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。」の肯定的回答は10割である。また「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」の肯定的回答も10割だった。教職員が一体となって児童の自己肯定感を育む努力を継続して行ってきたことが児童の自己肯定感の向上に貢献していると考えられる。今後も児童の自己肯定感を高められるよう、教職員・保護者・地域の連携を深め、協働して教育活動を行える体制を整えていく。	
○「将来の目標や夢をもっていますか。」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか。」の肯定的回答は10割だった。将来のことを考え、社会に貢献したいという気持ちが高まっていると思われる。今後も大谷プラン等地域の人材を活用しながら、キャリア教育等の充実に努める。	
○「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」「授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」の肯定的回答は10割だった。教職員が授業改善に取り組んできた成果が、児童の主体的な学びの向上に生かされたと考えられる。今後も教職員一丸となって、授業改善に取り組んでいく。	
●「算数の勉強は得意ですか。」「算数の勉強は好きですか。」の肯定的回答が県の平均よりも低かった。一方で「算数の授業の内容はよくわかりますか」の肯定的回答は9割を超えていた。基礎的事項の習熟に努めながら、児童が知的に熱中するような授業展開ができるように、職員研修等を充実させ、得た学びを児童に還元していく。	

宇都宮市立城山東小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
復習により定着を図る学習の充実	・「宮っ子学習ステップアップシート(漢字・計算)」の計画的な実施。(年5回) ・朝の学習「国語」での「書く力を身に付けるための」プリント学習の実施。 ・朝の学習での、担任以外の教職員の活用。 ・AIDリルの活用。	○授業において、主体的に考え取り組む児童の割合が高い。 ○国語「書くこと」では、正答率が市をやや上回った。 ○算数では、「図形」以外の領域において、理科では全領域において、正答率が市と同等または上回った。 ●算数では、全区分で市の平均正答率を大きく下回っている。特に、「変化と関係」などの思考・判断・表現において課題が見られる。
言語活動の充実による主体的・対話的な指導の実践	・学び合い活動での課題設定や発問の工夫。 ・自分の考えを表現するための工夫。(ペア、少人数等の学習形態の工夫、絵や図、1人1台端末の活用。) ・発達段階に応じた話し方・聞き方の指導や話し合いのポイントを示した掲示資料の活用。	○国語「情報の扱いかたに関する事項」では、正答率が市の平均をやや上回った。 ○理科では、全領域において市の正答率を上回った。 ●国語「話すこと・聞くこと」では、正答率が市の平均を大きく下回った。
実感を伴った作業的・体験的活動の充実	・日常生活における身近な物を測ったり、身近な事象に目を向けたりする機会の、意図的な設定。	○理科では、全領域において正答率が市の平均を上回った。 ●算数「図形」や「データの活用」では、正しく式に表したり、自分の考えを適切な言葉や数を用いて表すことに課題が見られる。 ●理科では、関係性や違い、変化に着目して、自分の考えを述べることに課題が見られる。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語では、言語についての知識・技能、特に「話すこと・聞くこと」について課題が見られた。 算数では、自分の考えを必要な言葉を使って表現することに課題が見られる。	学校生活全般における、話し合い活動等の協働的な学びの場の意図的な設定と充実。	・各教科で、自分の考えを表現する活動の際に、考えることや必要な言葉を明確にして示すことで、児童自身の考えを引き出し、言葉や文章で表現する力の向上を図る。 ・自分の考えをもつための手立てや発問の工夫を行い、自分の考えを文、図、絵などで表現する活動を意図的に取り入れる。 ・授業だけでなく、朝の会や総合的な学習等において、意図的に話し合い活動を取り入れ、児童と教員、児童と児童の学び合いの場を設定し、言語活動の充実を図る。 ・「話し方のルール」「聞き方のルール」を丁寧に指導する。 ・児童会活動やクラブ活動、総合的な学習等で異学年交流の場を設け、相手に応じた話し方、聞き方を身に付けさせる。